

豊田佐吉は電池も作ろうと考えていたのよ。
その思いを受け継いで、
昔から電気自動車を作ってきたのね。



動力に対する関心

豊田佐吉は、1906年に「環状織機」を発明し、翌1907年に特許を取得しました。通常の織機は、杼が往復運動してよこ糸を入れるのに対し、環状織機は杼の円運動によってよこ糸を入れるため、エネルギー損失が少なく、作動による騒音の発生を低く抑えることができました。それと同じ発想から、1914年には蒸気機関のピストン往復運動を円運動に改良した「環状単流原動機」を発明し、特許を取得しました。このように佐吉は、動力そのものに対する関心も高かったようです。

豊田自動紡織工場(現 トヨタ産業技術記念館)が発電用にスイスのスルザー社製400馬力ユニフロー蒸気機関を導入したのは、1914年です。当時、名古屋周辺で自家発電用の蒸気機関を導入した例は、佐吉の豊田自動紡織工場と弟である平吉の豊田織布押切工場があげられる程度で、珍しい存在でした。

ところで、1922年秋から1923年春にかけて、平吉は欧米視察旅行に出かけ、ドイツ製電気自動車を購入してきました。自家発電による電力を動力源とし、喜一郎も利用したとのことでした。しかし、当時の蓄電池の性能では、一晩充電しても走行できる時間は限られ、走るよりも充電している時間のほうがはるかに長かったのです。



豊田佐吉



環状織機

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <http://www.tcmit.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.